

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073400485		
法人名	ハッピーナカオ株式会社		
事業所名	グループホーム はなみずき		
所在地	福岡県太宰府市水城6丁目15-28 (電話) 092-918-8766		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 1 日	評価結果確定日	令和 6 年 1 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

静かな住宅街の中にあり、敷地も広く、畑を作って野菜等を植えている。できたら収穫し、毎日の食卓にお出ししている。利用者同士の触れ合いや、職員とのふれあいを大切にすることを常に意識し、フロアのテーブルを一まとめにしている。また、日中3人の職員の内、必ず1人はフロアにるようにして、利用者との会話を大切にしたり、利用者同士のコミュニケーションが円滑にいくようにしている。地域との交流では、自治会に加入し、地域主催の防災勉強会・防災炊き出し会に参加させて頂いている。また、施設の防災訓練には、地域の方が多数参加し、共に訓練を行い意見交換している。施設からは、地域の方々に介護技術・老人ホームや認知症について講習会を行い、地域との交流を大切にしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 5 年 11 月 30 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、住宅街の中にある2階建ての建物である。敷地内には、庭園や広い菜園があり、畑で収穫した野菜を調理したり、干し柿作りをしている。職員が仕事とプライベートが充実できるように、勤務体系等、職場環境を整えている。利用者の意欲を引き出すように、様々な工夫をしており、歩行訓練している廊下の壁に、市内の名所の写真を貼ったり、季節の壁画作成時は、利用者ができることをしてもらっている。地域交流に力を入れており、秋祭りにバザー参加したり、近隣住民と気軽に話をしたり、介護相談を受けることがある。利用者はできることを職員と一緒にやり、充実した普段の生活を営むことができる事業所である。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は、毎日の朝礼の際に、唱和している。利用者のケアの方向性で迷いが生じた場合に、理念に添っているのか振り返るように心がけている。	地域密着の視点を含めた4つの理念があり、玄関や事務所に掲示している。朝礼で理念を唱和し、会議等で理念の内容について話し合いをして、理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会加入し、地域主催の防災勉強会や防災炊き出し会、夏祭などに参加していたが、コロナ感染禍で中止となっていました。今年は地区の秋祭りに参加が決まり、利用者様と地域の方々と交流出来るようにバザー（手作り雑貨や輪投げのゲーム）をするように計画を立てています。	地域の秋祭りで、利用者手作りの雑貨をバザーで職員と一緒に販売する等、地域と関わりをもつよう心がけている。事業所の庭を開放し、散歩に来ている近隣住民に声をかける等、日常的に交流をしている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会にて、老人ホームの種類と認知症についての講習会を公民館でおこなったり、介護技術講習会を行ったりしていたがコロナ禍で行われていない。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご家族様、地区自治会、市役所、の方に参加していただいている。事故報告やヒヤリハット報告・状況報告・最近の施設での取り組みについての報告などをおこなっている。また、行事報告やその他、自施設の連絡事項を伝えている。参加者から出た意見は議事録に残し、検討している。（R5・5月より再開）	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。利用者やサービスの状況、現在の取り組みや今後の活動等について報告している。構成員からの意見・質問・要望を聴き、サービスの向上に活かしている。運営推進会議の議事録は、玄関に置いてあり、家族が来た時に閲覧することができる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所職員の方々に運営推進会議に出席していただき、入居者の状況や自施設の取り組みを伝えている。また、自施設を運営する上で、疑問点がある場合は相談させて頂いている。（毎月初旬に入居者情報に記載している）	日頃から行政に電話や窓口で、相談・連絡・報告をしている。コロナ禍前は、公民館の行事の時で、車いす操作や移乗方法等、介護を身近に感じることが出来るような介護教室等を行っていた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常時施錠しないようにしている。また、ミーティング等で利用者の活動性や認知症の周辺症状について検討し、できるだけ不要な精神薬等は外すように随時検討している。（身体拘束委員会3か月毎に開催）	日中、玄関は施錠していない。ベッドからの転落予防のため、臥床中に4点柵を使用している利用者が1名いる。家族の同意書はあり、手続きや記録はしている。3ヶ月に1回身体拘束委員会で、拘束をなくすための検討をしている。年1回、内部研修を実施している。	臥床時の環境や支援方法の見直しを常に行い、早期の改善を期待する。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて理解を深めている。管理者が夜間を中心に利用者の状況や職員の状態を、申し送りや主任を通じて把握し、助言、注意を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修にて職員全員で学習している年間の施設内研修科目に入れているので繰り返し行っている。以前は家族会にてパンフレット等で説明を行っていましたが、コロナ対策で家族会が中止となっており、ご家族様への説明は不十分と認識している。	家族には、必要時に成年後見制度について説明している。パンフレット等を準備している。年1回、成年後見制度について、全職員が内部研修で学んでいる。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明の際には、重要事項説明書・入居契約書の各項目に添って説明し、説明後は各書類ごとに疑問点がないか確認している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの説明の際に、要望を聞くようにしている。また、2ヶ月に1回お送りしている状況報告書に、ご意見や要望を記入する欄を作り、玄関に設置している意見箱に投書できるようにしている。	日常的に利用者の要望や意見を聴いている。事業所の畑で収穫したサツマイモを利用者が希望するメニューで調理している。家族へは、面会時や電話連絡時に要望や意見を確認している。天候がよい日は、庭で面会したいと希望があり、いつでもできるようにテーブル等を準備したり、外出希望時は、状況をみながら外出できるように支援している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際は、職員全員の意見を聞くため、個別に検討用紙に記入して頂いている。また、業務の変更や、新しく何かに取り組む際は、主任に相談して、現場の意見を聞くようにしている。年に2回、法人部長と管理者で職員一人ずつ面談を行い、会社に対しての要望や意見を聞く機会を設けている。	管理者は、ミーティングで職員が発言する機会を設けている。個別で、電話やライン等を活用しながら、意見を確認している。利用者の食事の時の席替えや食事の形態等について、職員から意見や提案があった時は、他職員に意見を聞きながら、最終的にはミーティングで決定している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自施設独自の職員評価表に基づき、年2回の面接を実施している。その際にその職員の良い点・改善点・悩み事・次回面接までの自己目標の話をしている。職員の努力や実績に応じて、パート常勤を正社員常勤に昇格している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用については、年齢制限などなく、面接の印象や質問に対する答えなどで検討している。職員がプライベートでも充実できるよう、勤務表を作る際は、公休希望を聞き入れている。また、月の途中で、家庭やお子様の学校行事などがあれば、シフトの交代ができるよう配慮している。	採用選考では、年齢や性別等を理由に採用対象から排除していない。定年はなく、何歳までも就労可能である。家庭の事情や休日希望を配慮しながら、勤務体系や勤務表を作成している。職員の意欲を損なわず、得意なことを活かすことができるように、職場環境を整えている。掃除や洗濯は外部業者に委託し、介護業務に専念できるようにしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者に対する人権に関する施設研修を行っている、職員と話し合うがまだ不十分。	年1回、高齢者の人権について、全職員が内部研修を受講している。研修に参加できなかった職員は、後日研修資料を確認して個別で学んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回、勉強会を開催し、担当職員にテーマを決めて頂き、自己学習して発表する機会をつくっている。外部研修は経験に応じた研修内容を選び、随時受講している。認知症実践者研修については、1人ずつ受講していただくようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入している、コロナ以前は出席する事もありましたがその後のオンラインでの参加は不十分となっている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の表情、声かけにて不安なことがないか聞くようにしている。また、御本人のささいな言動を介護日誌に細かく記載するように心がけている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される際に、ご家族が今まで、自宅で介護される際に困っていたことや、施設でどのような生活を希望されるのか聞くようにしている。入居前に病院や施設に入所されていた場合は、入所先に訪問し、情報収集している。居宅におられた場合は、担当ケアマネージャーから情報収集している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前にご家族と面会をして、情報を集め、入居時にまず支援しなければならないことが見極められるよう努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の現在の能力を把握し、日常生活における食事の下ごしらえ・食器拭き・片付け・洗濯もの等の家事や、共同スペースなどの季節に応じた飾りつけ、毎月の壁画作りなどを職員とともにやり、過剰な介護にならないようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節毎の衣類の衣替えや、クリーニング・生活用品の購入など、身の周りのことをご家族と相談している。今年コロナが5類に分類され、特別な事情の外出は検討し、感染対策を含めお出かけが安全に行えるよう、ご家族に外出先での留意点等もお話している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お電話やお手紙があればご本人にお伝えし家族様との交流や知人の方からのお手紙については、ご本人の管理が難しい場合にファイリングしている。	利用者の馴染みの人や場所の情報を家族や利用者から聞いている。入居後、利用者との会話の中で、情報を得ることもある。電話の取り次ぎや利用者あての手紙を読む等の支援をしている。ドライブの時は、利用者の馴染みの場所を通り、馴染みの場所とのつながりが継続できるようにしている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常、フロアに出てきて頂き、利用者同士の会話や各種のレクリエーションに取り組んでいく事で孤立化を防いでいます。職員はフロアを空けないように意識し、認知症等により会話がかみ合わない場合は、職員が間に入って仲介している、寝たきりの利用者も日中必ず離床時間を設けて他利用者様と過ごして頂いている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も関係性を維持できるように施設で暮らしていたときの写真をお送りしたり、相談されると必要に応じて対応をとる様に心掛けています。差し入れや物品の寄付なども頂いたことがある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴、家族からの聞き取り、趣味嗜好を参考にご本人の思いや意向をくみ取る様になっている。ただ認知症の進行に伴いまとまらない場合は過去の思い、家族の意向を重視するように心がけている。	家族から細かく情報を聞き取って過去を知ることで、今の思いを汲み取るための会話に活かしている。利用者とは馴染みのある雰囲気醸し出すようにして、笑顔で生活ができるように想いを引き出す等の工夫をしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、職歴、生活スタイル、家族との関係性について入居前の居宅ケアマネや病院の連携室のソーシャルワーカーとの連携に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にバイタルチェックを行い日々の状態に努めている。心身上程が低下しないように生活歴、既往歴、服薬状態を参考に現状把握に努めている。2週間に1回の往診時、対応があれば随時先生に相談を行い、急変時はその都度、報告、相談を行っています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回、ほぼ全員の職員が集まり事前に利用者様の課題や意見を出しケアプランを作成している、医療面に関しては、他職種の意見を参考にしている。また、ご家族の希望での外出支援も行っている。	6ヶ月に1回、ケアプランを見直している。ケアプラン検討情報用紙に記入し、担当が取りまとめて、会議で意見を出し、利用者や家族、かかりつけ医等の意見を聞き取り、プランに活かしている。ミーティングでプランの達成度を確認し、少しずつ達成を重ねていけるようなプランを意識している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌には、その日の出来事や利用者様の言動を詳しく記載するよう心がけている、状況の変化があれば申し送りノートに記入し情報を共有している。問題がある際は職員で話し合いケアの方法の修正を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院時のお見舞いはコロナ禍になりおこなってはいない。また、利用者それぞれのかかりつけ病院の受診・他科の支援、緊急時の受診対応もおこなっている。生活環境以外に各種心身機能に影響が出る様に様々なメニューの取り組みを工夫している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域では、自主防災組織というものがあり、その組織と利用者・職員とともに自施設の火災訓練を行っている。地域の夏祭り（今年から秋まつり）・防災勉強会など、催し物に積極的に参加するよう努めている。10/14の秋まつりに参加		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・ご家族が希望されるかかりつけ医に診察してもらうことができるよう支援している。自施設の協力病院とは24時間365日相談・受診ができるように体制をとっている。	内科医の訪問診療があり、臨時的診療も可能である。他に月1回、歯科、泌尿器科が往診に来ている。通院は基本的に職員が行っており、通院の際の情報を家族に報告している。精神科受診の際は家族と病院で待ち合わせ、一緒に付き添っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアの中で、気づいた事は随時看護師に報告するよう努めている。看護師が不在の時は、個別に作成している看護日誌に記載し、看護師と情報共有できるように努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院された際、当施設がまとめた情報を元に入院までの経緯を病院にお伝えしている。退院に際し、居室の環境整備、身体機能の変化に応じ取り組んでいる		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設で取り決めをしている方針、入居者、家族の意思を確認し医師の指示に従いながら日々細かく経過を観察した。重度化した利用者に対しては、職員が個別に細かく体調管理を行い、看護師・ケアマネや主治医と連携しながら支援にあたった。ご家族様の希望もあり看取りにも対応できる施設として勉強をしている。	入居時と状態の変化があった時に説明している。状態の変化があった時は、医師より説明をもらい、看取り意向確認書・同意書に署名・捺印をもらっている。最近4名の利用者を看取り、内部研修で学んだことを活かして実践している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が急変時に円滑に対応できるように写真入りのマニュアルを作成し、目に付くところに掲示している。また、救急搬送依頼書・基本情報のファイルを作り、お薬手帳と一緒に一箇所に集約している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時のマニュアルを作成しているが、年2回現在は、コロナ禍で外部からは接客は難しいが独自に訓練を行っている。	年2回、夜間想定も含めて避難訓練を行っている。コロナ禍前は消防署立ち合いのもと、地域の方も参加していた。今年度まで自主避難訓練をすることとしており、来年度からコロナ禍前の方法で再開する予定である。非常用備蓄品は3日分用意しており、消費期限が近付いた食品はアレンジを加えて食事の際に提供している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導の際は、周囲に配慮し声の大きさや言葉を選び耳元でお声掛けをしている。居室のドアやカーテンを閉め、見守りの際にも本人からは見えない様に配慮している。職員間で情報共有する際、排尿のことを「1番」排便のことを「2番」と呼ぶようにしている。また、利用者のことについて話すときはイニシャルを使用している。	「プライバシーに関する取り決め」を基に朝礼やミーティング等で職員に周知し、日頃の業務に活かしている。例えば、「おしっこに行きたい」という発言があったとき、言葉をそのまま繰り返すのではなく、プライバシーの観点から代替えの言葉を言うようにし、他者から分らないように配慮している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の不安や迷いを抱えている際には何うような声掛けをし、傾聴し一緒に物事を進めている。ご本人の表情を観察し、遠慮や困惑はないか配慮している、		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方々が各自のペースである事を念願において、職員が各利用者の訴えや動きに合わせて行動し何らかの言動があったときは、業務の手を休め、利用者に傾聴し対応するよう努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容はお声掛けをし介助している。（洗顔・洗髪・衣服）また、外出時や行事の際は、ご本人と相談しながらおしゃれを楽しんで頂けるように支援している。敬老会などは軽くお化粧をさせて頂いています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせて、調理の下ごしらえ、食器拭きなど出来る事をして頂き、ご自分で出来る事の喜び皆の役に立っている喜びを感じて頂きながら、職員と一緒にやっている。季節に応じた材料（畑などで収穫）でオヤツづくりをしている。	食事は法人の業者が配食し、ご飯と汁物は事業所内で作っている。サツマイモをふかしたり、一緒に渋柿を剥いて干し柿やジャムにしたりして、庭や畑でとれた果物や野菜を食卓に出して、季節が感じられるように工夫している。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、食事をチェックしている。水分チェック表を作成し、利用者様の体重に合わせた水分摂取量を目標にしている、利用者の咀嚼・嚥下状態を把握し、食事形態を個別に変えている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っており、風邪予防も兼ねて、緑茶でのうがいを実施している、義歯は夜間帯にポリデント消毒をしている。口腔内に異常があれば、訪問歯科と連携を取るようになっている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンを把握し、それを元にトイレ誘導してできるだけ失敗しないように努めている。夜間はセンサー時、時間が空く時はお声掛けし排泄誘導を行っている。	排泄パターンを把握し、行動や表情からも読み取り、誘導を行っている。入居時におむつだった利用者がトイレ誘導することによって、段階を重ねてパットになる等、自立の支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェック表で飲水状況を把握、食事は消化がよいように柔かめになっている。医師に相談の上、排便状況によって、便通の薬の調節している。便秘の際は、処方されている下剤を服用していただくか、個別に取り決めをしている。午前中はラジオ体操・梅干し体操をおこなっている、		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日は水・土と決められているものの、1日かけて入浴しているため、1日の中でどの時間帯に入りたいのか、できるだけ利用者の意向に沿ったタイミングで入浴していただくよう努めている。入浴の際は職員との会話を楽しめるよう努めている。	入浴はユニットで曜日をずらして週2回設定しているが、毎日入浴できるように準備している。入浴を望まない利用者には、時間や日にちを変えて声かけをしている。ゆず湯や薔薇湯をして、入浴が楽しめるように工夫している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムはそれぞれ違うことを理解し、利用者の行動や表情から休息が必要な時を見極めるよう心がけている。安心して休息できるような声かけや空調管理、冬場の湿度調節を行っている。誘導の工夫を日々の活動の中で心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者全ての薬の作用・副作用について理解しているとはいえないが、医師の指示通りに服薬介助している。誤薬がないように、日付・いつ・名前を声に出して、飲み込むまで確認している。薬が変更になった際は、スタッフと確認し間違えがないようにしている		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を中心に、個々の出来る事をして頂いている、レクリエーションでは、皆様に集まって頂き、クイズ、歌などで楽しんで頂いている。又花の世話・散歩など、御本人が得意なことや、好きなことができるように努めている。個々の得意分野を知り自尊心を傷付けない様に利用者にあったレクを行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には、屋外で散歩などができるように努めている。ご家族との外出の要望があれば、今年の5月から検討し支援をしている。月に1回は、外食や四季に合わせたお出かけを計画するようにしている。時折、地域の行事への参加も行いたい。	天気が良い日は、事業所周辺を散歩したり、テーブルを出しておやつを食べたりして楽しんでいる。外食行事はコロナ禍になってからは行っていない。ドライブは、コロナ禍でも月に1回は行い、季節の花を見に行く等、支援している。通院付き添い後、家族が利用者を自宅に連れて行く場合もある。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者ではあるが、お金を所持されている。お出かけの際はご自身のバッグを持たれお財布を持参されるが支払う気持ちはないようである。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、電話のやり取りができるようにしている。お手紙ではないが、普段の生活で塗り絵や工作にお名前を書いて頂きご家族様にお渡ししている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はできるだけ自然の光を取り入れるように心がけている。フロアにはソファやテレビなど家庭的にくつろげれるように配置している。冬は加湿するよう注意を払っている。季節感を感じられるよう、一月ごとにフロアの壁飾りを利用者様と一緒に作成変更している。	大きな窓からは日差しが入り、事業所は高台にあるため眺めが良い空間となっている。共有スペースにはソファが置かれ、ソファベッドになるため、横になって休むことができる。壁面には職員と一緒に作った季節の飾りが飾られ、季節感を味わえるようになっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が集まるフロアには、テーブルイスのみではなく、横に慣れるようにベッドを設置しいつでも休めるようにしている。廊下にはリカンベントバイクを置き順番に運動出来る様にソファも置いている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には見慣れた物・使い慣れた物を持って来て頂くよう声かけしている。母の日、敬老会、クリスマス等で作った飾りものを飾って和んで頂けるように心がけている、ご家族より昔の写真を飾ったりして頂いている。	備え付けのベッドとタンスはあるが、希望すれば馴染みのタンス等を持ち込むことができる。居室には写真や手作りの作品が飾られ、安心して落ち着いて過ごせる空間となっている。季節外の寝具や衣類を家族が持ち帰り、季節に応じて持って来るため、室内はすっきりしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者をご自分の居室が理解できるよう、居室入り口に目線の高さに合わせて、手作りの表札を設置している。入浴時にはお風呂の入口にのれんを設置している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は、毎日の朝礼の際に唱和している。利用者のケアの方向性で迷いが生じた場合に、理念に添っているか振り返るように心掛けている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会加入し、地域主催の防災勉強会や防災炊き出し会、夏祭りなどに参加していたが、コロナ禍で中止となっていました。今年は地区の秋祭りに参加が決まり、利用者様と地域の方々と交流出来るようにバザー（手作り雑貨や輪投げのゲーム）をするように計画を立てています。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会にて、老人ホームの種類と認知症についての講習会を公民館でおこなったり、介護技術講習会を行ったりしていたがコロナ禍で行われていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご家族様、地区自治会、市役所の方々に参加していただいている。事故報告やヒアリハット報告・状況報告書・最近の施設での取り組みについての報告などを行っている。また行事報告やその他、自施設の連絡事項を伝えている。参加者からでた意見は議事録に残し検討している。（R5・5月より再開）		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所職員の方に運営推進会議に出席していただき、入居者の状況や自施設の取り組みを伝えている。また、自施設を運営する上で、疑問点がある場合は相談させて頂いている。（毎月初旬に入居者情報に記載している）		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常時施錠しないようにしている。また、ミーティング等で利用者の活動性や認知症の周辺症状について検討し、できるだけ不要な精神薬等は外すように随時検討している。（身体拘束委員会3か月ごとに開催）		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて理解を深めている。管理者が夜間を中心に利用者の状況や職員の状態を、申し送りやユニットリーダーを通じて把握し、注意を払っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修にて職員全員で学習している。年間の施設内研修科目に入れているので繰り返し行っている。以前は家族会にてパンフレット等で説明を行っていましたがコロナ対策で家族会が中止となっておりご家族様への説明が不十分と認識している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明の際には、重要事項説明書・入居契約書の各項目に添って説明し、説明後は各書類ごとに疑問点がないか確認している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの説明の際に、要望を聞くようにしている。また、2ヶ月に1回お送りしている状況報告書に、ご意見や要望を記入する欄を作り、玄関に設置している意見箱に投書できるようにしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際は、職員全員の意見を聞くため、個別に検討用紙に記入して頂いている。また、業務の変更や、新しく何かに取り組む際は、主任に相談して、現場の意見を聞くようにしている。年に2回、法人部長と管理者で職員一人ずつ面談を行い、会社に対しての要望や意見を聞く機会を設けている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自施設独自の職員評価表に基づき、年2回の面接を実施している。その際にその職員の良い点・改善点・悩み事・次回面接までの自己目標の話をしている。職員の努力や実績に応じて、パート常勤を正社員常勤に昇格している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用については、年齢制限などなく、面接の印象や質問に対する答えなどで検討している。職員がプライベートでも充実できるよう、勤務表を作る際は、公休希望を聞き入れている。また、月の途中でも、家庭やお子様の学校行事などがあれば、シフトの交代ができるよう配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者に対する人権に関する外部研修を受け、伝達講習として職員の周知をしながらはいけないがまだ不十分		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回、勉強会を開催し、担当職員にテーマを決めて頂き、自己学習して発表する機会をつくっている。外部研修は経験に応じた研修内容を選び、随時受講している。認知症実践者研修については、1人ずつ受講していただくようにしている。（認知症基礎研修2名e-ラーニングで受講予定）		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、コロナ以前は出席する事もありましたが、その後のオンラインでの参加は不十分となっている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の表情、声かけにて不安なことがないか聞くようにしている。また、御本人のささいな言動を介護日誌に細かく記載するように心がけている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される際に、ご家族が自宅で介護される際に困っていたことや、施設でどのような生活を希望されるのか聞くようにしている。入居前に病院や施設に入所されていた場合は、入所先に訪問し、情報収集している。居宅におられた場合は、担当ケアマネージャーから情報収集している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前に、ご家族と面会をして、情報を集め、入居時にまず支援しなければならないことが見極められるよう努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の現在の能力を把握し、日常生活における食事の下ごしらえ・食器拭き・片付け・洗濯もの等の家事や、共同スペースなどの季節に応じた飾りつけ、毎月の壁画作りなどを職員とともにやり、過剰な介護にならないようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節毎の衣類の衣替えや、クリーニング・生活用品の購入など、身の周りのことをご家族と相談している。今年コロナが5類に分類され、特別な事情の外出は検討し、感染対策を含めお出かけが安全に行えるよう、ご家族様に外出先での留意点等もお話している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お電話やお手紙があればご本人にお伝えし家族様との交流や知人の方からのお手紙については、ご本人の管理が難しい場合にファイリングしている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常、フロアに出てきて頂き、利用者同士の会話や各種のレクリエーションに取り組んでいく事で孤立化を防いでいます。職員はフロアを空けないように意識し、認知症等により会話がかみ合わない場合は、職員が間に入って仲介している、寝たきりの利用者も日中必ず離床時間を設けている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も関係性を維持できるように施設で暮らしていたときの写真をお送りしたり、相談されると必要に応じて対応をとるよう心掛けています。差入れや物品の寄付なども頂いたことがある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴、ご家族からの聞き取り、趣味嗜好を参考にご本人の思いや意向をくみ取る様にしている。ただ認知症の進行に伴いまとまらない場合は過去の思い、家族の意向を重視するように心掛けている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、職歴、生活スタイル、家族との関係性について入居前の居宅ケアマネや病院の連携室のソーシャルワーカーとの連携に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にバイタルチェックを行い日々の状態把握に努めている。月に1回は体重測定、月に3回は血中酸素飽和度の測定も行っている。異常があれば、1日の中で定期的に測定をしている。いつも体調を管理しながら、その方の能力に応じたもの（散歩・家事・レク）などをして頂いている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回、ほぼ全員の職員がミーティングに参加し、それぞれが事前に記入した利用者の課題や意見をもとにケアプランを作成している。医療面に関しては他職種の意見を参考にしている。ご家族にも外出支援の協力もして頂いている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌には、その日の出来事や利用者様の言動を詳しく記載しよう心掛けている。状況の変化があれば申し送りノートに記入し情報を共有している。問題がある際は職員で話し合いケアの方法の修正を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院時のお見舞いはコロナ禍になり行っていない。また、利用者それぞれのかかりつけ病院の受診対応も行っている。生活環境以外に各種心身機能に影響が出るように様々なメニューの取り組みを工夫している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域では、自主防災組織というものがあり、その組織と利用者・職員とともに自施設の火災訓練を行っている。地域の夏祭り（今年から秋祭り）・防災勉強会など、催し物に積極的に参加するよう努めています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・ご家族が希望されるかかりつけ医に診察してもらうことができるよう支援している。自施設の協力病院とは24時間365日相談・受診ができるように体制をとっている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアの中で、気づいた事は随時看護師に報告するよう努めている。看護師が不在の時は、個別に作成している看護日誌に記載し、看護師と情報共有できるように努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院された際は、当施設がまとめた情報を元に入院までの経緯を病院にお伝えしている。退院に際し居室の環境整備、身体機能の変化に応じ取り組んでいる。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設で取り決めをしている方針、入居者、家族の意思を確認し医師の指示に従いながら日々細かく経過を観察した。重度化した利用者に対しては、職員が個別に細かく体調管理を行い、看護師・ケアマネや主治医と連携しながら支援にあたった。ご家族様の希望もあり看取りにも対応出来る施設として勉強をしている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が急変時に円滑に対応できるように写真入りのマニュアルを作成し目に付く所に掲示している。また、緊急搬送依頼書・基本情報のファイルを作り、お薬手帳と一緒に一か所に集約している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時のマニュアルを作成しているが、年2回現在は、コロナ禍で外部との訓練は難しいが独自に訓練を行っている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導はカーテンや居室の扉を閉めて行っている。トイレの声かけも周囲に知られないように配慮している。トイレの見守りの際にも、本人から職員が見えないように配慮している。職員間で情報共有する際、排尿のことを「1番」排便のことを「2番」と呼ぶようにしている。また、利用者のことについて話すときはイニシャルを使ったりしている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の不安や迷いを抱えている際には何うような声掛けをし、傾聴し一緒に物事を進めている。ご本人の表情を観察し、遠慮や困惑はないか配慮している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方々が同じリズムではないことを念頭において、職員が各利用者の訴えや動きに合わせて行動するよう努めている。何らかの言動があったときは、職員業務の手を休め、利用者に対応するよう努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗顔・髪や衣服の身だしなみを整えるように、声掛け・介助をしている。また、外出時や行事の際は、相談しながらおしゃれを楽しんで頂けるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせて、調理や下ごしらえ、食器の片付けなど、職員と一緒にしている。食事をしながら会話し、楽しく食事ができるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、食事量をチェックしている。水分チェック表を作成し、利用者様の体重に合わせた水分摂取量を目標にしている、利用者の咀嚼・嚥下状態を把握し、食事形態を個別に変えている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている、歯間ブラシ、口腔スポンジ、歯ブラシを使用し、うがいは緑茶で殺菌、風予防もしている。口腔内に異常がある場合は訪問歯科と連携し治療または、口腔ケアに対する助言も頂いている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンを把握し、それを元にトイレ誘導してできるだけ失敗しないように努めている。排泄が自立されている利用者は、排便確認が困難なので、排便があったらコールを鳴らすよう、トイレに張り紙をしている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェック表で飲水状況を把握、食事は消化がよいように柔かめにしている。医師に相談の上、排便状況によって、便通の薬の調節している。便秘の際は、いつどの下剤を服用していただくか、個別に取り決めをしている。毎朝ラジオ体操をおこなっている、白米に押し麦、甘味にオリゴ糖を使用している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日は火・木・土と決められているものの、1日かけて入浴しているので、1日の中でどの時間帯に入りたいのか、できるだけ利用者の意向に沿ったタイミングで入浴していただくよう努めている。入浴の際は職員との会話を楽しくするよう努めている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活習慣を見ながら、無理に居室（ベッド）にお連れせずに、ソファで下肢拳上したり、クッション、ひざ掛け等を使用し、気持ちよく休息出来るように心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者全ての薬の作用・副作用について理解しているとはいえないが、医師の指示通りに服薬介助している。誤薬がないように、日付・いつ・名前を声に出して、飲み込むまで確認している。薬が変更になった際は、その薬の効果を観察し、次回の受診の際に、医師に報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、洗濯たみ等、能力にあった作業をして頂いています。ご自分で役割をきちんと果たそうとされます、楽しみながら日々過ごされ、花の手入れ、縫い物、歌、散歩などご本人が得意な事や好きな事が出来るように努めています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には、屋外で散歩などができるように努めている。ご家族との外出・外泊なども要望があれば、行っていただいている。月に2回は、外食や四季に合わせたお出かけを計画するようにしている。時折、地域の行事への参加も行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者ではあるが、お金を所持して頂き、買い物等の支援を行っている。また、お金を所持していないことに不安がある利用者にも、所持して頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、電話や手紙のやり取りができるようにしている。積極的な支援ではないが、暑中見舞いや年賀状などのやり取りができる支援を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はできるだけ自然の光を取り入れるように心がけている。冬はフロアや各居室を加湿するよう注意を払っている。季節感を感じられるよう、一月ごとにフロアの壁飾りを変更している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	下肢浮腫がある方には、フロアの一人がけソファにて下肢拳上して安楽に過ごしてもらっている。雑誌を見たい方は、机にて静かになら読んでもらったり気の合った方同士で長いソファにて談笑してもらっている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度、温度管理の機器を設置し適切に管理している、排泄臭に気配りし換気に努めている、本人の思い出の品などを可能な限り居室に飾って頂き、住み慣れた空間になるように努めている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の動線に沿って、手すりを設置し、本人がそれを活用できる声掛けしたり、動線上に余分な物置かないよう配慮したり、通路の足元灯なども活用し、歩行時の明るさ管理を行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①毎日ある	<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある	<input type="radio"/>	④ほとんどない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2／3くらいと		
				③ 家族の1／3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2／3くらいが		
				③ 職員の1／3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が		
				② 利用者の2／3くらいが		
				③ 利用者の1／3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2／3くらいが		
				③ 家族等の1／3くらいが		
				④ ほとんどいない		